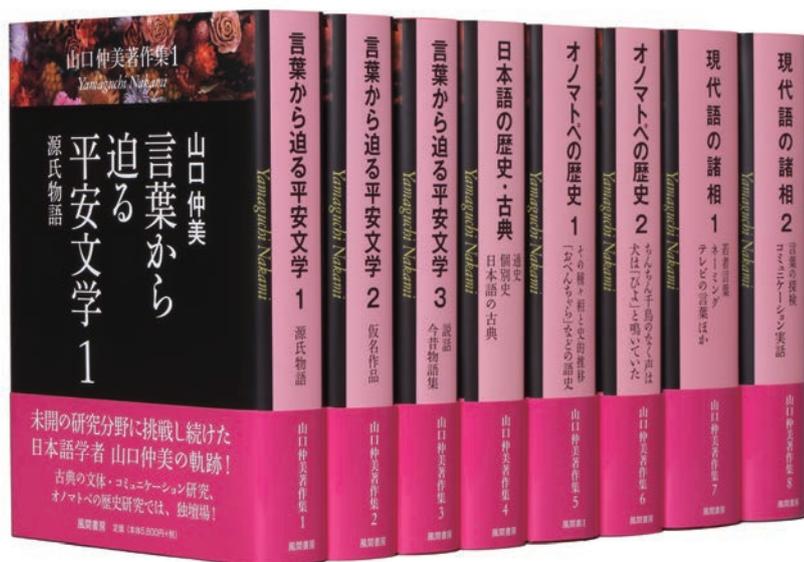


山口仲美著作集

全8巻

2020年9月
ついに完結！



日本語の研究&エッセイの集大成！

ユニークな発想のもとになる自由奔放なテーマ
そのテーマを手堅く攻めていく実証的手法
まさに千変万化
読んでいて飽きないところが、この著作集の見どころである

- A5判・上製カバー装
- 各巻平均665頁
- 総頁5,316頁
- 各巻 定価6,380円(税込)
- 揃価 定価51,040円(税込 分売可)



【著者略歴】

山口仲美（やまぐち なかみ）

一九四三年静岡県生まれ。お茶の水女子大学卒業。
東京大学大学院修士課程修了。文学博士。

現在、埼玉大学名誉教授。

専門―日本語学（日本語史・古典の文体・オノマトペの歴史）

著書―『平安文学の文体の研究』（明治書院、第12回金田一京助博士記念賞）、『平安朝の言葉と文体』（風間書房）、『日本語の歴史』（岩波書店、第55回日本エッセイスト・クラブ賞）、『犬は「びよ」と鳴いていた』（光文社）、『日本語の古典』（岩波書店）など多数。

二〇〇八年紫綬褒章、二〇一六年瑞宝中綬章受章。
専門分野関係のテレビ・ラジオ番組にも多数出演。

山口仲美著作集 **全8巻**

各巻 定価 6,380円（税込）
揃価 定価 51,040円（税込 分売可）

- 1 言葉から迫る平安文学 1** 源氏物語
A5判・上製カバー装 614頁 ISBN978-4-7599-2237-0 (2018.10)
- 2 言葉から迫る平安文学 2** 仮名作品
A5判・上製カバー装 614頁 ISBN978-4-7599-2238-7 (2018.10)
- 3 言葉から迫る平安文学 3** 説話・今昔物語集
A5判・上製カバー装 548頁 ISBN978-4-7599-2258-5 (2018.12)
- 4 日本語の歴史・古典** 通史・個別史・日本語の古典
A5判・上製カバー装 632頁 ISBN978-4-7599-2284-4 (2019.5)
- 5 オノマトペの歴史 1** その種々相と史的推移・「おべんちゃら」などの語史
A5判・上製カバー装 722頁 ISBN978-4-7599-2294-3 (2019.10)
- 6 オノマトペの歴史 2** ちんちん千鳥のなく声は・犬は「びよ」と鳴いていた
A5判・上製カバー装 616頁 ISBN978-4-7599-2297-4 (2019.12)
- 7 現代語の諸相 1** 若者言葉・ネーミング・テレビの言葉ほか
A5判・上製カバー装 830頁 ISBN978-4-7599-2328-5 (2020.5)
- 8 現代語の諸相 2** 言葉の探検・コミュニケーション実話
A5判・上製カバー装 740頁 ISBN978-4-7599-2335-3 (2020.9)

著作集全巻の完結にあたって

予定通り、著作集全巻が二〇二〇年秋に完成した。途中で、疲れて顎を出してしまったこともあるが、ともかく予定通りに刊行できた。私を脅かす隣臓が、何も暴れることなく静かに著作集の刊行を見守ってくれた。夢のように思える。

著作集のような全貌の見渡せる著作物を作ると、自分がどんなスタンスをとって研究を進めてきたのかを客観的に俯瞰できるようになる。自分には、次のような二つの傾向が顕著だったように思う。

第一に、従来の国語学では研究されていないテーマを研究対象にする傾向である。古典の文体研究、オノマトペの研究は、その典型。ほとんど研究されていない分野であった。その他、古典におけるコミュニケーション研究、あだ名や売薬名といった命名の研究も、ほとんど注目されていなかった。未開拓分野の研究は、自分で問題を見つけ、解決する方法を考え、調査し、説明していく必要がある。実は、それが、私にとっては、このうえなくワクワクすることだったのである。

第二の自分の傾向は、論文だけではなく、一般向けの発信も行なうことである。論文を書いてみると、一般の人にも知ってほしいと思うような面白い事実が明らかになることがある。すると、私は、論文集の形ではなく、リライトして一般向けの本にして刊行する。「ちんちん千鳥のなく声は―日本人が聴いた鳥の声―(大修館書店)」、「犬は「びよ」と鳴いていた―日本語は擬音語・擬態語が面白い―(光文社)」、「日本語の歴史」(岩波書店)は、その産物。むろん、これらの本も著作集に収めてある。

著作集全巻は、研究者のみならず、一般の方々にも知ってほしい、楽しんでほしい、という気持ちから編まれている。どうかあなたも手に取って気に入った頁から読み始めていただきたい。

二〇二〇年八月一〇日

山口仲美

1 言葉から迫る平安文学1

二〇一八年一〇月刊
六一四頁

著作集1・2・3『言葉から迫る平安文学』三巻は、言葉や文体、表現やコミュニケーションといった言語学的な立場から平安文学の諸問題を解明する。

第一巻のテーマは「源氏物語」。三部から成る。

I部は、「源氏物語」男と女のコミュニケーション。「源氏物語」に登場する男と女は、どんなコミュニケーションをとっていたのか？ 現代に応用できるコミュニケーション論は、きつとあなたの役に立つ。

II部は、「源氏物語」の言葉と文体。比喩や象徴詞(オノマトペ)や形容語などに注目して、「源氏物語」独自の問題を解明した論を収録。

III部は、「文章・文体研究の軌跡と展望」。「言葉から迫る平安文学」三巻に収録した論文に一貫する著者の立場は、語学的文体論。そうした文章・文体研究についての解説と展望を収録。この分野の草創期を知る上でも重要な論説。

2 言葉から迫る平安文学2

二〇一八年一〇月刊
六一四頁

著作集1・2・3『言葉から迫る平安文学』三巻は、言葉や文体、表現やコミュニケーションといった言語学的な立場から平安文学の諸問題を解明する。

第二巻のテーマは、「仮名作品」。平安時代の仮名で書かれた『源氏物語』以外の日記・随筆・物語を対象としている。四部から成る。I部は、導入部的な論。

II部は、「物語と日記の言葉と文体」。平安文学作品全体の文体にかかわる問題と、竹取物語・和泉式部日記といった個別の作品の言葉と文体にかかわる問題をあざやかに解明。

III部は、「枕草子」新しい読み方。『枕草子』をマナー集として読むという新しい読み方を提示し、『枕草子』の魅力味わう。

IV部は、「研究余滴」。仮名文学作品を読んでいて、疑問に思ったこと、感動したこと、主張したくなったことなどを、エッセイ風にまとめたものを収録。

3 言葉から迫る平安文学3

二〇一八年二月刊
五四八頁

著作集1・2・3『言葉から迫る平安文学』三巻は、言葉や文体、表現やコミュニケーションといった言語学的な立場から平安文学の諸問題を解明する。

第三巻のテーマは、「説話・今昔物語集」。説話文学全般およびその中で傑出している『今昔物語集』を対象に、言葉や文体あるいは表現方法を追究した巻。三部から成る。

I部は、「説話文学の言葉と文体」。直喩法などの表現技法に的を絞って、従来とは違った出典文献との比較という方法で手堅く『今昔物語集』の文体に迫った論などを収録。

II部は、「今昔物語集」の表現方法。『今昔物語集』の表現方法に着目し、読者を魅了してやまない表現方法の秘密を明らかに。

III部は、「今昔物語集」にみる生きる力。読者に勇気と生きる力を与えてくれる話をセレクトし、原文・現代語訳・解説を行ない、『今昔物語集』の持つエネルギーをあぶりだす。

4 日本語の歴史・古典

二〇一九年五月刊
六三二頁

著作集4『日本語の歴史・古典』は、日本語の史的推移を追究した著書や論文を収録したもの。

I部は、「日本語の歴史―通史―」。日本語はどんなふうに進んで、現代にいたるのか？ 日本語の将来を担うすべての人々にむけて、その史的推移をわかりやすく解説。

II部は、「日本語の歴史―個別史―」。日本語を文体、語彙、命名、翻訳語という個別的な観点からクローズアップして、その史的推移を解明。日本人の感覚・感情のあり方、その時代の志向などを浮き彫りにする。

III部は、「日本語の古典」。言葉や表現といった今までは違った日本語学的な切り口から、古典作品を通史的に取り上げ、その魅力を解き明かす。

この巻は、遠い昔の日本人の熱い血と切なる思いをお伝えできることを願って執筆されている。

5 オノマトペの歴史1

二〇一九年一〇月刊
七二二頁

著作集5・6『オノマトペの歴史2』は、オノマトペ(擬音語・擬態語)のさまざまな性質や史的推移を明らかにした論文やエッセイを収録。

I部は、「オノマトペの種々相」。「源氏物語」や『今昔物語集』、狂言やコミックなど作品別・ジャンル別にとらえた時に顕著に現われるオノマトペの特色・機能を説明。研究のエキスをぎゅっと詰めこんだ二〇のコラムも、おすすぬ。

II部は、「オノマトペの史的推移」。語彙・語音構造・意味・語法などの面からオノマトペの史的推移を追究。男女の泣き方を表すオノマトペ、動物の声を写す擬音語、楽器の音を表す擬音語など、興味津々の史的推移が解き明かされる。

III部は、「おべんちゃら」などの語史。「いちやもん」「おべんちゃら」「どんぶり」「パチンコ」などオノマトペにルーツを持つと思われる言葉を対象に、その語史を追究。びっくりするような言葉のルーツが明らかに。

6 オノマトペの歴史2

二〇一九年二月刊
六一六頁

著作集6『オノマトペの歴史2』は、オノマトペ(擬音語・擬態語)のうち、鳥の鳴き声や獣の声を写す言葉の推移の解明に特化した巻。

I部は、「ちんちん千鳥のなく声は」。カラスやウグイスなど一二種類の鳥の鳴き声を写す擬音語の歴史を辿る。現代人が予想もしなかったような鳴き声から、その時代の人々の暮らしや民話・民間信仰まで解明されてゆく。

II部は、「犬は『びよ』と鳴いていた」。時代とともに推移する擬音語・擬態語の一般的な性格を明らかにし、犬や猫、牛などの獣の声の変化とその原因を追究。日本人独特の感性と文化が光る予想外で楽しい話がいっぱい。

III部は、「オノマトペ研究余滴&エッセイ」。妖しげな言葉、「ちんちんかかも」はどこから出て来た言葉? 「ひゅうどろどろ」は、なぜお化けの出る合図に? オノマトペがあるからこそ可能になる豊かな日本語の世界がここに。

7 現代語の諸相1

二〇二〇年五月刊
八三〇頁

著作集7『現代語の諸相1』は、若者言葉・あだ名・広告表現・テレビの言葉などの現代語をテーマにした著書・論文を中心としている。

I部は、「若者言葉に耳をすませば」。若者言葉はどんな特質を持っているのか? 本音全開の座談会を中心に、若者言葉を創りだす方式・特色を実証的に追究していく。

II部は、「ネーミングと広告」。命名行為の秘密を解くカギの詰まった「あだ名」。傑作な「あだ名」の条件とは? また、新聞・ラジオ・テレビにおける広告表現の推移も解明。

III部は、「テレビの言葉」。刻々と変わりゆく言葉の先端を視聴者の立場とテレビを作る立場からとらえている。どうかあなたもテレビで出題された問題を解いていただきたい。

IV部は、「現代語の問題&エッセイ」。日本語教育や敬語表現などに関する論を収録。滅入っている人を元気にさせるのは「言葉の力」。そんなエッセイも最後に収めておいた。

8 現代語の諸相2

二〇二〇年九月刊
七四〇頁

著作集8『現代語の諸相2』は、ユニークな言葉、中国人や医者とのコミュニケーションをとりあげ、エッセイタッチで書いた単行本を収録している。

I部は、「言葉の探検」。ドキッとするような七二の言葉や表現をとりあげ、その特性を説明。冒頭に付いている問題を解いてから本文に読み進むと、論旨が一層明快に。

II部は、「言葉の先生、北京に行く」。中国人の大学教師・リーさんを中心に、彼らのコミュニケーション術やその能力の高さにたじたと話を受録。

III部は、「大学教授がガンになつてわかつたこと」。命に係わる選択を、どのようなコミュニケーションで解決したのか。納得のいく治療を受けるための患者の心得を伝授。

IV部は、「身辺エッセイ&経歴」。身の回りで起きた出来事、私の出会ったステキな先生、日々の思いなどを綴る。最後に、著者のこれまでの歩みを網羅した経歴を取めた。

未開の研究分野に挑戦し続けた 日本語学者 山口仲美の軌跡!

古典の文体・コミュニケーション研究、
オノマトペの歴史研究では、独壇場!





筑紫語学論叢Ⅲ 一日本語の構造と変化一

筑紫日本語研究会 編

A5判 520頁 定価14,300円
ISBN 978-4-7599-2373-5 (2021.3)

筑紫日本語研究会(旧・筑紫国語学談話会)40周年を記念した論文集。「日本語の構造と変化」をキーワードに、九州を中心としながらも、北海道から関東、関西、中国、四国と、全国にわたる日本語研究者の「力」を結集した。

【目次概要】日本語使役文の用法と歴史的变化(青木博史)／終助詞「なむ」小考(森脇茂秀)／中古散文における「連体形+ソ」文の用法—ノダ文・連体ナリ文との共通点と相違点—(勝又隆)／『上井覚兼日記』における「被賜・被給」をめぐって(堀畑正臣)／中世室町期の注釈書における「～トナリ」の用法(山本佐和子)／洒落本における不定の「ぞ」「やら」「か」(川瀬卓)／ソコソコの語史(清田朗裕)／「ワル(悪)+形容詞」の消長—形容詞語形成の観点から—(村山実和子)／愛媛県宇和島市三間町毛利家の角筆文献と漢詩学習—写本「三體詩 中」を資料として—(西村浩子)／昭和初期、福岡県直方の方言矯正書二種(岡島昭浩)／北琉球語喜界島方言の授与動詞(荻野千砂子)／佐賀東部方言の条件節における準体形式「ト」の挿入—一時制節性からみた条件表現の体系についての—考察—(有田節子)／九州方言の動詞タ形・テ形に起こる音便現象の対応関係：予備的考察(有元光彦)／天草諸方言における音調型と複合名詞アクセントの中和(松浦年男)／出雲方言アクセントの分布と歴史—2拍名詞4類と5類のアクセントをめぐって—(平子達也)／ロシア資料と上代特殊仮名遣工列音—下二段動詞の場合—(江口泰生)／鹿児島方言における対格標示の条件—ロシア資料と近代談話の比較から—(久保蘭愛)／長崎方言の終助詞バイの変遷について—近世近代の長崎史料を中心に—(前田桂子)／大正10年『読売新聞』の日本語関連記事について—「新聞記事データベース」活用の一例として(新野直哉)／連体修飾節と被修飾名詞の関係—スケールを表す被修飾名詞に着目して—(東寺祐亮)／間接疑問文発達の—過程—日本語史を中心に—(衣畑智秀)



筑紫語学論叢 奥村三雄博士追悼記念論文集

迫野虔徳 編

A5判 548頁 定価16,500円
ISBN 978-4-7599-1270-8 (2001.4)

奥村三雄博士は九州の地で永年にわたって研究教育に専念された。遺稿「『特殊形アクセント』について」を巻頭に、筑紫国語学談話会会員27名による追悼論文集。

【執筆者一覧】奥村三雄／岡島昭浩／高山倫明／江口泰生／内山弘／迫野虔徳／矢野準／関一雄／西田隆政／堀畑正臣／山下和弘／青木博史／荻野千砂子／坂口至／塚本泰造／辛島美絵／林慧君／田籠博／山県浩／柏原卓／岡野信子／杉村孝夫／木部暢子／添田建治郎／崎村弘文／久保智之／有元光彦／田尻英三



筑紫語学論叢Ⅱ 一日本語史と方言一

筑紫国語学談話会 編

A5判 612頁 定価18,700円
ISBN 978-4-7599-1575-4 (2006.5)

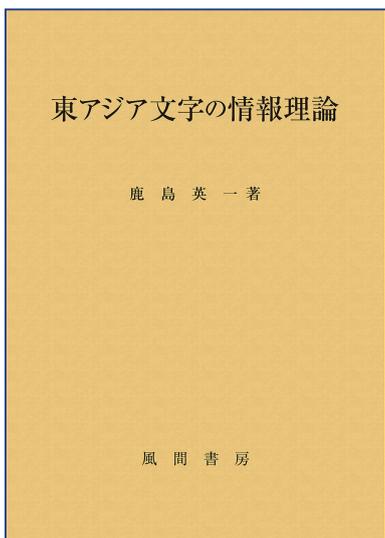
「日本語史と方言」というテーマのもと、音韻・表記、文法、語彙、文献、方言などについてまとめた、迫野虔徳先生の退官と筑紫国語学談話会25周年記念の論文集。

【執筆者一覧】早田輝洋／前田富祺／山口佳紀／柳田征司／鈴木丹士郎／迫野虔徳／佐野宏／江口泰生／高山倫明／奥村和子／矢野準／堀畑正臣／山下和弘／荻野千砂子／青木博史／辛島美絵／山本秀人／前田桂子／播磨桂子／新野直哉／林慧君／田籠博／藤本憲信／山県浩／岡島昭浩／坂本浩一／木部暢子／久保智之／高橋敬一／崎村弘文／杉村孝夫

東アジア文字の情報理論

九州大学名誉教授
文学博士 鹿島英一 著

東アジア固有の文字は漢字及び漢字の影響下の文字と雲貴高原の絵文字群に大別される。本書は定量的データから文字大系の特徴に迫る。



東アジア文字の情報理論

鹿島英一著

風間書房

A5判・1006頁

定価 16,500円(本体 15,000円+税)

ISBN978-4-7599-2389-6

目次概要

序 旧漢字圏

第1章 漢字集合と字数

—台湾「常用国字」と韓国「常用」漢字—

はじめに／台湾「常用国字」の集合論／韓国「常用漢字」との比較／台湾「常用国字」の文字単位数／結語

第2章 変形漢字

はじめに／諸言語の変形漢字／ベトナム史概説／字喃—変形漢字／字喃の集合論／方塊壮字

第I部 疑似漢字

第3章 西夏文字

はじめに／西夏／西夏文字の集合論／結語

第4章 契丹小字—ハンゲル音節文字との比較—

はじめに／北方系疑似漢字／契丹小字の集合論／契丹小字の字形配置の特徴／結語

第5章 女真文字

はじめに／女真文字／女真文字の集合論／対称類型の分布

第II部 雲貴高原の絵文字群

第6章 規範彝文

はじめに／規範彝文／規範彝文の集合論

第7章 納西東巴文

はじめに／東巴文／東巴文の集合論

第8章 水書

はじめに／水書の集合論

第9章 傣僂音節文字

はじめに／傣僂音節文字／傣僂音節文字の集合論

第III部 世界の文字

第10章 音標文字の類型

はじめに／文字の対称類型／世界の音標文字単位数の類型分布表／結

好評の既刊

文字の情報理論序説 鹿島英一 著

A5判 676頁 定価 34,100円(本体 31,000円+税)

漢字やカタカナから楔形文字やローマ字にいたる古今東西の文字を、元来「文字は情報伝達符号である」という新たな観点を導入して展開した画期的な書。(ISBN978-4-7599-1034-6 1997年刊)

風間書房

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-34

電話 03-3291-5729 FAX 03-3291-5757 振替 00110-5-1853

https://www.kazamashobo.co.jp E-mail pub@kazamashobo.co.jp

〔注文書〕

東アジア文字の情報理論 鹿島英一著

定価16,500円 ISBN978-4-7599-2389-6 風間書房刊

書店名 (番線)

お名前・お届け先住所・電話番号

2021年度 日本語学会 秋季大会

【書籍注文書】

書名	冊数	種別	公費書類		
			見積書	納品書	請求書
		公費・私費	見積書	納品書	請求書
		公費・私費	見積書	納品書	請求書
		公費・私費	見積書	納品書	請求書
		公費・私費	見積書	納品書	請求書
		公費・私費	見積書	納品書	請求書

公費書類の宛名：

公費書類の日付：

お名前：



〒

ご住所：

- ◆ご注文は、メール (pub@kazamashobo.co.jp) または FAX にて承ります。FAX をご使用の際は、本用紙をお使いください。
メールでのご注文の場合は、件名または本文に「2021年度 日本語学会 秋季大会」の旨お書きください。
- ◆学会員限定で、全品2割引で販売いたします。
- ◆本チラシに掲載されていない書目については、2020年版 弊社図書目録および弊社ホームページをご覧ください。こちらも2割引で販売いたします。
- ◆送料は弊社で負担いたします。
- ◆お支払い方法については、振替用紙を同封いたします。